相ノ木っ子だより

令和４年度
１２月号
上市町立
相ノ木小学校

自己表現で得られる喜び

「あー、緊張する」

児童会の５年生の子が、司会を進めながらわたしの後ろの方でつぶやいていました。そして、６年生が「ルパン三世のテーマ」の合奏を終えると、ふーと息を大きく吐き、元気よく６年生へのアンコールを会場に訴えました。たった一人で場を盛り上げる役割はずいぶんプレッシャーもあったでしょうが、そのパフォーマンスはとても振り切った、思い切りのよいものでした。学習発表会当日、たくさんの保護者や家族の方々を前にステージに立つという緊張の様子が、たくさんの子供たちに見受けられました。「うーん、おなか痛くなってきた」「えー、どうしよう」といった声、入場してくる際の笑顔に見られる少々硬い表情。それでも、そういった本番前の緊張に打ち勝ち、堂々と演技する子供たちでありました。普段では味わえない緊張感や達成感は子供たちをより成長させてくれるでしょうし、やはり学習発表会っていいもんだなと改めて感じました。

３年ぶりに学習発表会を開催することができました。新型コロナウイルス第７波がようやく落ち着きを見せ始めたかと思いきや、再び感染拡大の様相を呈し、あまり練習する時間も取れませんでした。そんな中、どの学年も工夫しながら練習を重ね、子供たち一人一人が一生懸命演技する姿をたくさんのお家の方々に観覧していただくことができ、本当にうれしい限りです。みんなで力を合わせた演技がかわいらしかった１年生「大きなかぶ」。とてもカラフルで愛らしい演出が光った２年生「スイミー」。声量もでんぐり返しも堂々の演技だった３年生「三年とうげ」。見せるパフォーマンスが秀逸だった４年生「チャレンジ環境 10」。プロ並みの話芸を披露した５年生「古典落語」。個々の能力を発揮して劇・英語・合奏どれもが素晴らしかった６年生「ルパン 26 世」。一人一人の素直で一生懸命な相ノ木っ子たちらしい発表だったと思います。そして、自分の役割や個性、高めてきた技量を発揮し、自分らしさを表現できたものばかりでした。

文豪夏目漱石は、次のように言っています。

芸術は自己の表現に始まって、
自己の表現に終わるものである。

あらゆる芸術というものは、自己表現に尽きると漱石は語っています。確かに芸術性の高い作品や技能には感銘を受けますが、何か物足りなさを感じる時があります。どんな巧みな芸術であっても、その中に自分らしさというものが込められてなければ、きっと受け取る側の心は動かないものなのかもしれません。学習発表会では、子供たちそれぞれの表現方法があり、得意不得意による表現力の個人差もあったでしょう。しかし、子供たちの一生懸命な姿には、素敵な自己表現が感じられ、立派な相ノ木っ子の芸術を見せてくれたと思います。

与えることはもらうよりも喜ばしい。
それは、はぎ取られるからではなく、
与えるという行為が自分の生命力の表現だからである。

これは、ドイツの社会心理学者エーリッヒ・フロムの言葉です。人に何かを与えるということは、人から何かをもらう以上にうれしいことであり、有益なことなんですね。子供たちの発表には、観ている人を楽しませようという気持ちが感じられ、ドッと笑わせる場面やへーと感心させられる場面等があり、いろいろなものをわたしたちに与えてくれました。きっと子供たちは、自分たちの表現を観ている人に届けることで、大きな喜びを得られたことでしょう。これからも、子供たちの「自分を自分らしく伝えよう」「相手のために何かしてあげよう」といった思いを大切に育てていきたいです。

当たり前な日本人

惜しくもベスト 16 で敗退となりましたが、日本代表が強豪国を相手に勝ち抜いた「ドーハの歓喜」に沸いたサッカーワールドカップ 2022。同じ日本人として、代表選手たちの気概とゲーム内容をたいへん誇らしく思います。そして、日本チームの躍進と同じくらいに注目されたのが、感謝の折り鶴が置かれたきれいな日本代表のロッカールームやスタジアムのごみ拾いをする日本人サポーターの姿です。日本人のそういった振る舞いは、これまでにも他国から反響があり、大きく賞賛されてきました。今大会では、日本チームの快進撃もあり、なおさら注目されましたし、ごみ拾いをする他国サポーターまで出てきました。それほど、心配りのある日本人の行動は、他国からすれば稀有なことで、驚きをもたれますが、手本にすべき敬意を示すものと評価もされます。

でも、こういった行為はわたしたちにとって単なる習慣付いたものであり、当然のこと、当たり前のことでしかありません。小さな頃から、公共施設を利用したら「来た時よりも美しく」「立つ鳥跡を濁さず」と教えられ、自然と身に付いてきたものですから。また、「みんながするから」「みんなが見ているから」といった同調性や公共性を重んじる国民性も大きく寄与しているでしょう。ですから、取り立てて素晴らしいと騒がれるものではないように思いますが、ほぼ全ての日本人がする行為であることや、行為を継続する日本人の精神を褒められることは、やはりうれしい気持ちになります。

しかし中には、「清掃する人の仕事を奪っている」「偽善やカッコつけである」といった指摘をする人もいます。確かに日本人は、人前だと無理にでもよい恰好をしがちですし、他人の目がなければ平気でごみを捨てる人もいますから、あながち間違ってない気もします。でも、カッコつけと言われようとも、きっとわたしたちは常に公共の場をきれいにしようとする気がします。そうしないと気が済まない自分がいるからです。これは、もう日本人としての気質がそうさせているんだとしか言えません。ですから、どのような捉え方をされても、みんなで使う場所や物を意識する日本人の行動は、大きな美徳であり、誇るべきものだとわたしは思います。

実業家の渋沢栄一は、次のように言っています。

できるだけ多くの人に、
できるだけ多くの幸福を与えるように行動するのが、我々の義務である。

個を犠牲にしてまで全体を優先することは間違っていますし、一人一人に目を向けること、一人一人のよさや考えを生かすことが大事だと思います。ですが、日本人が当たり前にしている気質を守り続けることもきっと大事なことでしょう。公共の場をきれいに扱うことは、次に使う人や他に使う人を気持ちよくさせます。少なくとも、そういった行為は自分自身を幸福にします。学校というみんなが使う公の場をきれいで、素敵な環境にし続けられる相ノ木っ子気質をしっかりと根付かせたいです。

行事予定（12月中旬～1月中旬）

１２月２２日（木）　地区児童会
　　集団下校 14:20
２３日（金）　第２学期終業式
　　下校 13:45
２５日（日）　冬季休業(～1/9)

１月　１日（日）　(祝)元日
　　２日（月）　振替休日
　　９日（月）　(祝)成人の日
１０日（火）　第３学期始業式
　　校内書初め大会
　　下校 14:30
１１日（水）　身体・視力測定(1・2 年)
１２日（木）　身体・視力測定(3・4 年)
１３日（金）　身体・視力測定(5・6 年)